愛知県指定史跡

権現山古墳（権現山古墳群）

３～４世紀

権現山古墳群は、１・２号墳の２基の前方後円墳の総称です。

◆立地

標高 65 メートルの権現山山頂に２号墳、南へ 80 メートルほどの尾根の上に１号墳があり、立地から２号墳が先に築かれたと考えられます。今は森におおわれた権現山も、昭和 30 年頃までは木々がなく、下から古墳がよく見えたといいます。

古墳が築かれたころは、権現山から東三河平野部や三河湾までを広く見わたせたことでしょう。権現山古墳群に葬られたのは、古墳時代前期（３～４世紀）に豊川中流域を支配した王でした。

◆権現山２号墳

全長 33 メートルの前方後円墳で、前方部が短い特殊なかたちをしています。古墳の主の遺体を納めた埋葬施設（主体部）は、調査されていません。

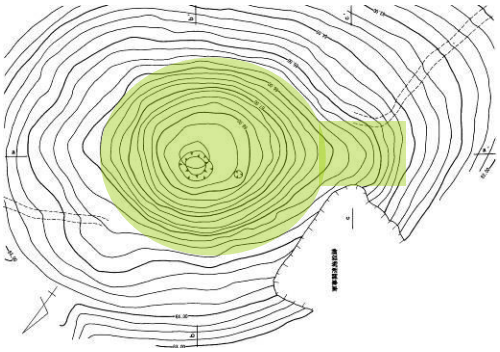
古墳の北側の裾から３世紀後葉の土器が出土しており、東海地方ではかなり古い前方後円墳となる可能性があります。

◆権現山１号墳

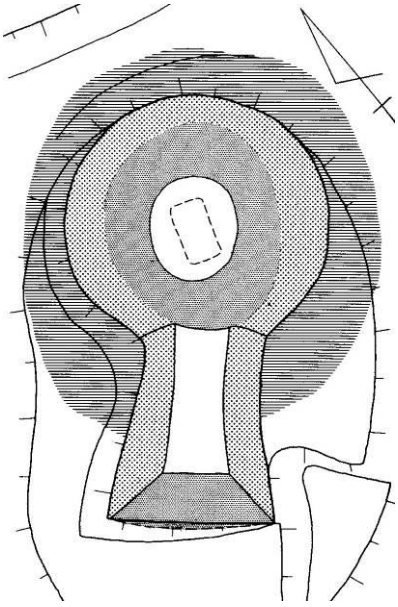
全長 38.4 メートルの前方後円墳です。小規模ですが、残存状態が良く、墳丘の形がとてもわかりやすい古墳です。

墳丘の全面は、権現山の角礫や豊川の円礫が使われ、後者は後円部の上半部や前方部の前面のみに見られるなど、石材を使い分けています。後円部には主体部の竪穴式石室があり、蓋石に白い石灰岩が使われていることが分かっています。

なお、墳丘には埴輪の前身である二重口縁壺が立て並べられていたようです。



権現山２号墳の測量図



権現山１号墳の墳丘復元図

権現山１号墳の後円部の葺石

豊橋市指定史跡

宮西古墳（馬越北山古墳群）

６世紀

市指定史跡・宮西古墳は、総数 20 基からなる馬越北山古墳群の中心となる古墳です。

◆立地

馬越集落の背後にあたる、山の南側斜面に古墳群はあります。いくつかのまとまりが見られ、南端の最も低い所にあるのが宮西古墳です。宮西古墳の周辺には 12 基の古墳が集中し、典型的な群集墳を形づくっています。

◆宮西古墳

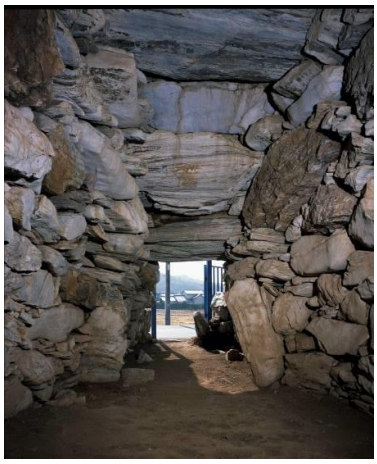
宮西古墳は南北 18 メートル、東西 15 メートルの楕円形の円墳で、著しく高まる腰高の墳丘は、遠くからでもよく目立ちます。

遺体を納めた横穴式石室は、道路に面した南側に口を開けています。入口には１対の柱のような石（立柱石）が立ち、ここから２メートルほど奥にもう１対の立柱石があって、その奥は広い空間になっています。入口の立柱石と奥の立柱石との間が通路（羨道）、奥の広い空間が遺体を安置した場所（玄室）です。

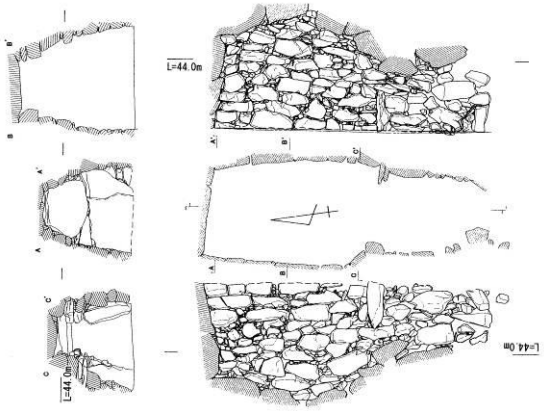
玄室は奥壁として巨石を２段に積み上げ、天井はドーム状に丸味を帯びており、典型的な三河地方の石室のかたちです。入口より前はかつての道路工事で壊されたようで、墓前でマツリをする場所（前庭）が道路部分にあったようです。

昭和 54 年に、県立時習館高等学校が石室の中を発掘調査しました。しかし、もともと口が開いていたためか、須恵器（古墳時代の陶器）の壺や耳環（耳飾り）、玉などがわずかに出土しただけでした。

宮西古墳の墳丘。背後の森に無数の古墳が



宮西古墳の横穴式石室



宮西古墳の横穴式石室 実測図

馬越北山古墳群

（まごしきたやまこふんぐん）

６～７世紀

豊橋市北部には、500 基ほどの古墳があります。多くは古墳時代後期から終末期、６～７世紀にかけて営まれた「群集墳（ぐんしゅうふん）」と呼ばれるものです。

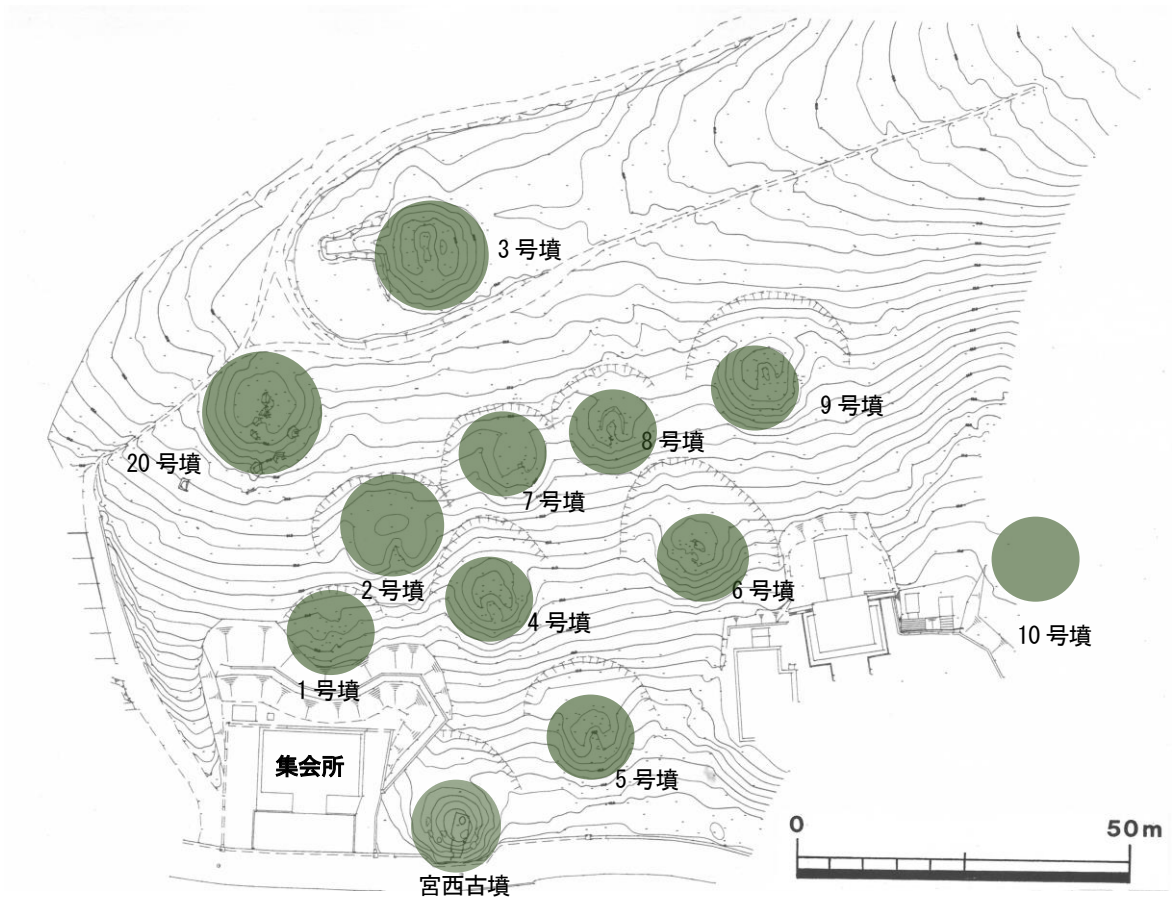
◆群集墳とは

限られた範囲に密集して築かれた古墳群のことです。半世紀ほどにわたり、古墳が築かれ続けました。血縁や地縁で結ばれた一族の、代々の墓地と考えられます。

◆馬越北山古墳群

丘陵の南側に展開する古墳群で、いくつかの群に分かれながら 20 基の古墳が存在します。この付近にはそのうちの 12 基が密集しています。最も低い場所にある宮西古墳は規模が大きく、最上部の尾根にある３号墳が最初に築かれた古墳と考えられます。宮西古墳以外は横穴式石室が崩落しており、墳丘の中央が陥没しています。

なお、群集墳の景観を良好に観察できるところは愛知県内では少なく、貴重です。



馬越北山古墳群　測量図